
我が探索部の異常依頼！

宮座頭数騎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

我が探索部の異常依頼！

【Nコード】

N2367B

【作者名】

宮座頭数騎

【あらすじ】

探偵まがいな事をする探索部。彼らは今日も生徒や他の部員から依頼を受けて、それをテキパキこなしていく。今回の事件は、下ネタあり、犠牲ありの異常探索事件発生。【望月】（DO:）「もうなんとも言えないです」【橘】（ω、;）「俺にとって散々な話だったよ、まったく」

（前書き）

注意！ この作品はとても小説と呼べるような作品ではありません。
注意！ この作品の30%は事実が含まれてます。注意！ この作品は中学生クラスから理解が出来る範囲の話です。中学生以下は読まない事をお勧めします。最後に、これを全てご了承でお読み下さい。
では！

探索部！

それは我が高校にある探偵紛いな事をとにかくやる超がつくほど変な部である。

この部は心霊現象やスポット、都市伝説の探索やらが主なのであるが、時にストーカー対策、連続殺人犯や世間を騒がせた怪盗を追い詰めたりなど、常識はずれなまねをする部で有名なのである。

さて、自己紹介が遅れたが――

【望月】（。。。）

「俺の名前は望月ケント。この探索部に無理矢理入部させられたちよつと可哀相な高校一年である」

【橘】（、ω、）

「悲劇の主人公面すんな」

【望月】（Д。；）

「うおっ！ 橘さん何時からそこに？」

【橘】（、ω、）

「さっきからいたぞ、てゆうかさつさと自己紹介しろ！ 一年のくせに何先にお前は自己紹介してんだボケ！」

【望月】（―。；）

「うっ！ 失礼しました。えーと、この人（、ω、）は橘トオキさん。二年生です以上」

【橘】（ω、；）

「おい！　なんか紹介短くね？」

【望月】（○。／（――）

「それでこの人は緑川サトルさん。この人も二年生です」

【橘】（ω、；）

「こらっ！　無視すんなっ！」

【緑川】（――）／

「ども、緑川ですよろしく、ああ、橘くんはとりあえず無視して構いませんよ。相手にしたら話が進みませんから」

【橘】（ω、；）

「み、緑川！　何てことを言うんだ！　俺はこの話の重要人物なんだぞ！」

【望月】（○。／（――）

「そしてこの人が部長の半田シンゴさん。三年生です」

【半田】（――）

「どうも、部長こと半田です」

【望月】（――○△）

「えっと、あと一人紹介する部員が一人いるんですが……あれ」

【神崎】

「部長――！」

俺が探してるなか、お目当てが突然声を上げて部室のドアを開い

て入って来ました。

【神崎】（A・；）

「はぁ、はぁ」

【望月】（O A）／（A・）

「こいつは神崎ヒロシ。俺と同じ一年で、俺を無理矢理この探索部に入部させたやつ」

【神崎】（A・）

「ん？ 何言ってんだ望月」

【半田】（――）

「神崎君、それよりもどうしたんだ。どうも焦ってたようだ？」

【神崎】（A・）

「おお、そうでした。新聞部から依頼が来ました！」

依頼―― そうですね言い忘れていました。

我が探索部は、主に他の部など生徒の依頼でそれを調べるのが探索部の活動なのです。

【望月】（A O）（――）

「ちなみに、部費は依頼者からもらっ……」

【半田】（A O・）（A、）

「望月君、お喋り過ぎるのはいけないなあ」

【望月】（A O・）（――）

「す、すみません。あの、銃しまって下さい。マジで恐いっす」

【半田】（「――」）
「うむ、よろしい」

そう言つて銃をしまつ半田部長。
相変わらず恐い。躊躇いなく本物の銃を頭に突き付けるのは止めてくれ。

間違つて撃つたらどうする気なんだ？

【半田】（「――」）
「そりゃあもちろん。闇に葬るに決まつてるでしょう。ニヤリ」

【望月】（〇Δ〇；）
「ッ！」

【神崎】（Δ・）
「部長、依頼の件！」

【半田】（――）
「ああ、そうでした。神崎君、依頼内容は？」

【神崎】（Δ・）
「依頼内容は、××××××××公園に真夜中よくゲイが出没して男を見つけては××××××××××と云つ、ゲイ伝説の実体探索です」

【橘】（ω、；）
「ゲイ伝説？ なんじゃそりゃ？」

【緑川】（――）
「ゲイ伝説。確か、××××××××公園には、ゲイを極めた男が

どこかに住み着いていて、真夜中にそこを通り掛かって男の目に止まった少年は、襲われ×××をされてしまつと言う。そして朝、目を覚ますと×が痛くなつていて手に札が握られてるとか言う伝説だよ」

【望月】（ＡＯ；）

「緑川先輩なんでそんな詳しいんですか？」

【橘】（ω、；）

「ついがゲイを極めた男つてなんだよそれ？　しかも少年限定！」

【緑川】（Ａ）

「少年の方が×××の×××が良くて×××がしやすいからと言う噂があるんだ」

【橘】（ω、；）

「噂かよ……」

【望月】（ＡＯ；）

「てゆうか×が多いですよ。これじゃあ何を言ってるのかわかりません」

【半田】（・―・）

「純粋な少年の為を思ってふせているのさ望月君」

【神崎】（Ａ・；）

「そーなんだ」

【橘】（ω、；）

「んなわけないだろ。ふせても出してるとき駄目じゃねーか」

【半田】（――）
「さて、まあゲイ伝説の実体に迫るこの依頼だが、請けるとしようか」

【緑川】（A）
「しかし、何故新聞部からなのか、それは気になりますね」

【神崎】（A・）
「それはですね。新聞部の何人かがこのゲイ伝説を調べようと現場に行ったらいいのですが、行った男子は襲われて全て放心状態、あるいは精神崩壊したみたいです。女子はショックが強すぎて人間不信に陥り登校拒否、引きこもりや現実逃避状態になってしまい真相を知る事が出来なかったそうです」

【橘】（ω、；）
「ゲイ極めし者、恐るべしだな」

【半田】（――）
「フフッ、なるほど。それで我が探索部の出番と言う訳か」

【緑川】（A）
「では、現場に行くのはいつにしますか」

【半田】（――）
「今日の真夜中」

【橘】（ω、；）
「ちよっとまった。異議ありだ部長！ いきなり実行はやバイだろ！」

【望月】（D.O.）

「そうですよ。作戦とかまずたてないと、特に俺は心の準備できてません！」

【緑川】（「」）

「僕は出来てますよ」

【神崎】（「・」）

「俺も出来てます」

【橘】（ω、）

「俺もだ！」

【望月】（D.O.）

「ちょっとちょっと橘さん。心の準備出来るの早いよ！ さっきの異議ありは別の理由だった訳？」

【橘】（、ω、）

「当然だろ！ 探索部員はいつでも死ねる覚悟ないと駄目なんだぞ！」

イヤイヤイヤイヤ！ そんなの今日知ったぞ！ まあ、確かにいままでふざけた依頼をこなしてきたけど、どれも生きた心地しない程ハードだったからなあ。

やっぱり今回もハードなのだろうか？

【半田】（「ー」）

「さて、我々はこうして現場に今いる訳だが」

部長が言っているとおり今、俺達全員は噂の公園のベンチに座ってる。いや、半田部長だけは立っていた。

【緑川】（――）／

「部長、どうやって真相を探るかを聞かせて下さい！」

【半田】（――）

「わかった。まずは、喉が乾いたから飲み物を飲みながら話そう」

なんか部長の笑みが不気味だ。

何かたくらんでるな。俺がそう思いつつ見守っていると、部長は部屋の冷蔵庫から持ってきたと言うジュースを俺達の目の前に出す。

【半田】（――）

「みんなはどれがいい？」

部長はすぐにこれがいいと言ってすぐにオレンジジュースを取って飲み干した。

残った四本のジュースは、コーラ、アイスティー、ポカリ、青汁？　ちよつとまで！　なんで青汁？　てゆーかなんで種類がこうバラバラなんだよ！　統一させろよ！　仕方ない、もつと心の中でツッコミたいが今は急いで青汁以外のジュースを取ろう。

てゆーか、青汁はジュースじゃねえ！

とりあえず心の中で最後のツッコミを入れていざ取ろうとしたら、皆もう取っちゃってるしね。

【望月】（DO:）

「てゆーか皆はやっ！」

【橘】（ω、）

「残ってんの青汁だけだぞ（ゴキユ、ゴキユ）」

ああ、橘さんが俺の飲みたかったコーラをがぶ飲みしてるー！
く、ちきしょう。青汁しか残ってないなんて！
仕方なく飲む俺。

うぐはあ！ マズい！ もう一杯なんて絶対言わないぞ！

【緑川】（ ）

「じゃあ代わりに、マズいもう一杯！」

み、緑川先輩！

あんたに言われるなんて。俺が言っとけばよかった。

【半田】（「ー」）

「だったらもう一つあるけど飲む？」

前言撤回！ やっぱり嫌だ。

【橘】（ω、）

「それより部長。真相を探る方法は？」

【半田】（ー）

「ああ、そうだったね。実は、今さっき作戦は決まったんだよね」

【半田を抜いた一同】

「はい？」

俺達が間の抜けた声で言うと、

「フオーーーーー！」

変な奇声が真夜中の公園で響いた。

【半田】（ ）

「来たみたいだね」

【望月】（ DO ; ）

「何のんきに言ってるんの部長！」

【緑川】（ D ; ）

「早く作戦を教えて下さい！」

緑川先輩が焦ってる。やっぱり身の危険を感じてるのか？

【半田】（ ー ）

「作戦は、ただ逃げる。それだけだ」

【一同】

「はあ？」

【半田】（ ー ≡ ）

「それじゃお先に！」

ああ、逃げた！ 俺達も急いで立ち上がり半田部長を追い掛けるように逃げる。

しかし……。

【橘】（ (。ω。;) ）

「うぎゃあー！」

あれ？ 橘さんだけベンチから崩れ落ちるようにバタリと倒れた！
四つん這いになってピクピクしてる。

【橘】（（。ω。；））
「体が痺れて動けねー！」

ええ！ 一体なんで？

俺達が不可解に思ってる横で部長が笑ってた。
遠く離れた場所から半田部長はビデオカメラを持って四つん這いにピクピクと倒れてる橘さんを撮影してた。

次に半田部長は携帯を取り出して電話をかけた。
ピクピクと震えた手で携帯を取り出して耳に当てる橘さん。

【橘】（（。ω。；））
「部長ー！ これは一体どういう事だー！ コーラに何を入れたんだー！」

【半田】（（ー））
「麻痺薬を少し多めにね」

【橘】（（。ω。；））
「真相を探る為の作戦とかは一体？ ……ハッ！ まさか！ 俺達に飲み物を飲ましたのは最初からこうする為！」

【半田】（（ー））
「フフ、橘君。君は良い部員であったが、君がコーラを飲むからいけないのだよ」

【橘】（（。ω。；））

「はかったな部長！ 部長——！」

【ゲイ】

「フオー————！」

ああ、ゲイ極めし者が橘さんの後ろに！

【橘】（（°ω°；））

「お、おのれ！ 俺とて探索の部員だ！ 無駄死にはしない！」

【ゲイ】

「フオー————！」

【橘】（（°ω°；））

「探索部に栄光あれ————！」

【神崎】（（Д；））

「橘さ————ん！」

【緑川】（（——°））

「悲しいけどこれ、探索なのよね」

【半田】（（——！°））

「うむ、彼は最初に発言した通り重要人物を担ってくれた」

なんだかもう訳わかんねーよ！

【橘】

「Gya——————！」

ひい！、俺がもしあのコーラ飲んでたらと思うと本当にゾッとする。

【緑川】（Ａ）

「あ、橘の×××が×××××と降ろされて×××がさらけ出した」

【神崎】（Ａ・）

「意外に大きいですね橘先輩の×××は」

【橘】

「アーーーーウッ！」

【緑川】（Ａ）

「入ったよ。×××が」

ウオーイ！ 何普通に観賞してんの！ しかも半田部長は満面の笑みで襲われてる橘さんの姿をビデオカメラで撮影してるよ！

てゆーか、皆スゲー冷たいよ。

何冷静に状況を淡々と説明してるわけ！

【橘】

「ギャーーーーウッ！」

こうして、ゲイ伝説の実体の入手作戦は橘さんの断末魔の奇声と共に幕を閉じた。

ゲイ伝説の実体入手に成功した俺達は、新聞部にそれを渡して依

頼の報酬を受け取った。

その後、新聞部が公開したゲイ伝説の写真の映像に橘さんが写っていたのは言うまでもないだろう。

そして朝。公園のベンチにて……。

【橘】（うん、）

「ううん、俺は一体？」

目を覚ました橘さんの右手には一万円が握られていたらしいです。しかし、その後でワイセツ容疑で捕まったそうです。

E
N
D

（後書き）

これと言ってないんですね。実はこの作品は適当に考えて作った作品です。真剣には書いてません。真剣に書く作品は真剣にとわきまえてるので、この作品は別物と見て下さい。では、評価待ってます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2367b/>

我が探索部の異常依頼！

2010年10月14日12時30分発行